

8月



お知らせ
 8月4日午後6時より高砂荘納涼盆踊り大会が開催されます。参加される方はお気をつけて来荘ください。駐車場は入り口でご案内させていただきます。

高砂荘新館だより
2018・8月号



たなばた



ご近所様のご厚意でいつも大きな竹をいただいて七夕飾りを作ります

傾聴ボランティアわらくでは、傾聴の他に歌会やフラワーアレンジメント、季節の部屋飾り作りなどでみなさんに寄り添って来ています。



傾聴ボランティアわらく



8月の予定

2日	リムジカ (午後2時)
16日	
3日	盆踊り前夜祭 (午後6時)
4日	第36回高砂荘納涼盆踊り大会
7日	理容 (午前中)
8日	演芸和みの会 (午後2時)
10日	ホーム喫茶 (午後2時)
18日	ムーンライト (午後2時)
23日	長谷川歯科往診 (午前中)
30日	
27日	郷間商店 (午後1時30分)

ちょっとした認知症介護ほなし

「どうせできないだろうから、やってみなくちゃわからない」への転換
 認知症になると、介護者も「どうせできないからやってもらわなくていい、やったとしてもちゃんとできないし手間がかかるからやらせない」という理由で、認知症になる前にやっていたことをやらせなくなってしまうことがあります。みなさんは、今まで習慣としてやってきたことを、急にやると言われたらほとんどの人が、生活すること自体に張り合いや気力をなくしてしまうのではないのでしょうか。もしくは、どうしてやらせてくれないんだと、乱暴になってしまう人もいられるかもしれません。認知症の人でもその感情は同じはず。介護者は、「どうせできない」という考えから、「やってみなくちゃ、やらせてみなくちゃわからない」という発想の転換が必要になります。先日、職員が認知症の研修の取り組みとして自分でやれることへのきっかけ作りとして、まずエプロンをしてもらい、茶碗を洗ってもらったという研修報告がありました。実際に自分の茶碗を洗ってもらったところ「他の人のも洗うから持ってきて」とおっしゃったそうです。「本当に助かります、また次も頼みますね」と声をかけることによって、その認知症の方は、表情にも明るさが増したそうです。人に必要とされていると感じることが、安心できる生活に繋がっていくのだと思いました。

